

(款) 15民生費 (項) 10児童福祉費 (目) 10児童支援費

◎施設保育の経費

私立保育所等入所事業

【 保育課 】

【総合計画上の位置づけ】

健やかで心豊かに暮らせるまち

健康福祉:すべての市民が健康で安心して生活を送ることのできる環境が整っているまち

【事業の目的】

対象 両親が働いていたり病気のため、家庭で保育できない就学前児童

意図 市内在住の児童が入所している私立保育所に対し補助を行い施設経営の健全化を図るため。

効果 私立保育所における児童の処遇向上等、及び施設経営の健全化を図るとともに、待機児童対策に取り組むことができる。

【事業の内容】

(1) 私立保育所等入所事業

- ・市内の私立保育所に入所している児童に係る運営扶助費を執行した。
- ・市外の公私立保育所に入所している児童に係る管外委託扶助費を執行した。
- ・他市町村が管内の私立保育所に対して運営費補助を実施している場合、その基準に合わせて他市に委託する本市分を負担する管外委託法外扶助費を執行した。

【中事業に含まれる実施計画事業】

待機児童対策施設の整備(私立保育園扶助)(4-1-4-⑰)

【事業費】

(単位:千円)

当初予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
834,277	861,476	852,242		9,234
主な支出内訳				
・ 私立保育所等入所事業				
私立保育所運営扶助費 10園				813,661
管外委託運営扶助費				36,314
管外委託法外扶助費				2,267
主な特定財源				
・ 国県支出金				333,776

私立保育所運営費扶助

保育所	運営費(千円)	延児童数(人)
富士愛育園	87,229	1,376
聖アンナの園	107,917	1,667
岩瀬保育園	120,550	1,312
岩瀬保育園植木分園		435
オレンジ	50,098	548
清心保育園	80,623	824
こぼとナーサリー	64,809	775
大船ひまわり保育園	61,150	653
たんぽぽ共同保育園	78,486	827
山崎保育園	90,444	1,188
アローキッズ鎌倉	72,355	930
計	813,661	10,535

管外委託扶助費及び管外委託法外扶助費

	運営費(千円)	法外扶助費(千円)	延児童数(人)
管外公立保育所	7,397	0	117
管外民間保育所	28,917	2,268	428
計	36,314	2,268	545

平成21年度事務事業評価シート

事務事業 No./名称	■サービス部門 子育て支援課 ことば-09 私立保育所等入所事業						
事務事業 単 位	ザイムス コード及び 個別事業 名	68	私立保育所運営補助事業				
		1325	私立保育所運営補助事業				
主管課	保育課		関連課				
分野名	健康福祉						
目標 (目標値)	地域の子育て支援を行なう 待機児童0人						
人口等の データ	データ区分	20年度	19年度	18年度	備 考		
	人 口	176,484人	175,902人	175,051人	・各年4月1日 ・対象者数=各年3月1日 現在 私立入所児童数		
	世 帯 数	77,430世帯	76,536世帯	75,611世帯			
	866人	724人	678人				
運営資源 状 況	決算値	852,242千円	663,159千円	621,913千円			
	(国・県)	333,776千円	251,510千円	244,513千円			
	(負担金等)	353,565千円	222,244千円	202,773千円			
	(一般財源)	164,901千円	189,405千円	194,627千円			
	人員配置数	3.0人	3.0人	3.0人			
	人 件 費	27,213千円	27,711千円	27,534千円			
	協働の パートナー						
事務事業 運営経費	総事業費	879,455千円	690,870千円	649,447千円			
	市民1人当 りの経費	4,983円	3,928円	3,710円			
	対象者1人 当りの経費	1,015,537円	954,240円	957,886円			
20年度事務事業の変更点(新規・廃止・縮小した個別事業)/事業仕分けの視点による妥当性の評価							
個別事業名	変更額(千円)	事業の変更点・変更理由			妥当性※	※妥当性の評価 ① 必要性なし ② 民間 ③ 国・県 ④ 現行どおり(鎌倉市)	
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(27年度)
待機児童数(各年度3月 1日現在・私立保育園分)	○	目標値	20	10	10	5	0
		実績値	76	30			
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度( 年度)
		目標値					
		実績値					
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度( 年度)
		目標値					
		実績値					
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度( 年度)
		目標値					
		実績値					
評価 ◎:目標を達成 ○:目標に向かって前進している △:横ばい ×:後退している ベンチマーク(県内外自治体や民間団体との比較値)							
団体名							

平成21年度事務事業評価シート

創意・工夫・課題等改善状況	課題・問題点	(20年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) 待機児童解消を目指しているが、むしろ増加傾向にある。更なる工夫、取り組みが必要。
	創意・工夫・課題等の改善点 20年度の成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) 待機児童対策として定員を超えた弾力的な運用による入所児童の受入れ。 保育所最低基準を遵守しつつ、保育士の弾力的配置等により、私立保育所定員合計760人のところ、平成20年度3月時点では866人の入所があった。
	未解決の課題・問題点	(20年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) 待機児童の解消
	今後の方針(対応・改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) 認定こども園の活用や認定保育施設の認可化、玉縄地域における子育て支援施設の開所等により、入所枠の拡大を図る。また、家庭保育福祉員制度の更なる活用については、現在国が作成中のガイドラインを参考にし、多様化する保育ニーズに対応していく。

一次評価(課長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 B:現状のまま継続	C:統合又は縮小 D:廃止又は休止	E:事業完了	A	改善の必要性 有
	待機児童解消のために各園において、弾力的な運用による児童の受入れを行なっているが、それ以上に保育需要は年々増しており、待機児童の解消には至っていない。本事業としては、今後施設整備や認定こども園の活用、他の施策と併せて検討していくことが必要である。				
担当課長氏名:		保育課長 奈須 菊夫			

二次評価(部長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 B:現状のまま継続	C:統合又は縮小 D:廃止又は休止	E:事業完了	A	改善の必要性 有
	待機児童解消への取り組みを推進することにより、結果的に潜在していた保育需要を喚起することになり、目標値である待機児童解消の達成には更なる努力を要する。 待機児童解消に向けて、保育の提供手段の多様化を図る必要がある。				
担当部名	こどもみらい部	部長名	岡部 富夫		